

昭和41年4月12日・第1巻第1号 発行

昭和60年3月31日・第18巻 発行

——(財)日本学校体育研究連合会機関誌——

学校体育研究

第18巻

昭和60年3月

財団法人 日本学校体育研究連合会

目 次

1. 巻頭言	学習と評価	会長	大石三四郎	1
2. 学校における「ダンス」の動向に思う		お茶の水女子大学教授	松本千代栄	4
3. 授業研究				
(1) 小学校の部				
ア.	豊かな心とじょうぶなからだの育成			8
	— 運動の生活化をめざした体力づくり —			
			東京都八王子市立陶鎔小学校	
イ.	運動する喜びを味わわせる指導のあり方			14
			神奈川県横浜市立間門小学校	
(2) 中学校の部				
イ.	種目選択による陸上競技・器械運動を楽しむ学習指導はどうすればよいか			20
			沖縄県浦添市立神森中学校	
(3) 高校の部				
イ.	意欲的に取り組む生徒を育成するための学習指導はどうすればよいか			26
	— 生徒が意欲的に取り組むダンス学習を目指して —			
			鹿児島県立錦江湾高等学校	
4. 功労者の提言				
(1)	一念と一念と重ねて一生なり	栃木県立栃木養護学校校長	須見 光一	32
(2)	私の願い	北海道札幌市立向陵中学校教諭	阿部 キヲ	32
(3)	氏より育ち	青森県青森市立堤小学校校長	安保 正義	33
(4)	私を支えてきた信条	東京都台東区立忍岡小学校校長	安藤 孝行	33
(5)	校長のあるべき姿を求めて	新潟県両津市立東中学校校長	土屋源左衛門	34
(6)	凡人は凡人の人生	静岡県立沼津商業高等学校校長	梶原 亨	34
(7)	三つの教育理念	京都府京都市立朱雀第一小学校校長	土田 謹一	35
(8)	体育ぎらいをつくり出さない			
	学習の創造	兵庫県明石市立明石小学校校長	山本 徳三	35
(9)	学校体育について	(財)島根県体育協会専務理事	渡邊 晴夫	36
(10)	教育とは自分を変えること	高知県立高知丸の内高等学校校長	文野 栄喜	36

学 習 と 評 価



会 長 大石 三四郎

学習と評価は教育における主要なるテーマである。学習結果をA, B, C, D, Eと表記して, A, B, Cまでを合格とし, D, Eは不合格とするという方法もある。A, B, C, D, Eの代りに, 甲, 乙, 丙, 丁, 戊と表したり, 木の名をあげて, 桜, 梅, 椿, 柳, 松と表したり, または, 5, 4, 3, 2, 1と表したりすることもある。

親が子を指導するときに, 子ができなければ, ムズカシイのかなと判断して, 学習の目標を下げてみる。または, 易々と全部を簡単に学習すれば, ヤサシイのかなと判断して, 学習の目標を上げてみる。このように, 学習と評価は何時も相補的に, 人の教育場面では裏表の条件を具えている。上記の5, 4, 3, 2, 1を, それぞれ目標点と学習の評価表示の方法とすれば, 5-1とであれば, 1の学習結果からすれば5という目標点は高すぎたかなと判断し, 3-5とであれば, 学習結果の5に対して3の目標点は低すぎたかなと判定する。このように推論すれば, 目標と結果点は, 目標が高くてれば結果も高くでる, 目標が低ければ結果も低くでるというように, 正の相関を示すように, 学習と評価の関係がでれば問題は余り起きない。すなわち, 最適の教育方法かとも思われる。しかし, 目標が高ければ結果は下がり, 目標が低ければ, 結果が高くなるという負の正相関が起きることもある。

このように考えると, 学習と評価の関係をどのように教育の過程に取り入れるかということほどムズカシイ問題はないのである。時には, 平安な学習方法ではなく, ムリを承知して目標を高くした方が, その学習成果のよいものが出現することもありうる。すなわち, 余りに目標と学習との結果の相関を重視すると, 味もそっけもない教育活動になって, 生徒にいや気さえ起こさせてしまう。そして, しばしば生徒の能力が高いのにかかわらず, その能力を異常と判断して押さえつけて, その生徒の失望を惹き起こすこともある。

「さてさて, 教育とは大変なことよ」と思い, 身も心もスクンデシマウような状態が起きてくる。そして, 人が人を評価することのムズカシサと, 時には人を評価すること自体が神に対するボウトクではないかとも思ったりする。千里を走る馬のいないのは, いないのではなく, 千里を走る馬を見分ける人が少ないからだともいわれている。このように考えてみれば, 要は, 人それぞれの特長があるのだから, その人の特長を予見してみても, それを伸ばせればよいではないかということにもなる。

とすれば, 教育における学習と評価の関係がますますわからなくなる。そこで, 凡人である私は, ゴク簡単な方法を取り入れて, 学習と評価の操作を実施している。それは, 5, 4, 3, 2, 1の到達目標を設定して学習してみる。5と設定して, 結果が1とであれば, 目標が高すぎるとして下げ, 5と設定して5と結果がであれば目標が易しいとし, 次に大体5と設定して結果が3とでる程度の学習と評価の関係を保つように努力している。これが, 5-0とでたり, 3-5となったりするような現象はできるだけ避けるのである。そして, ジット耐えて, 一つ一つ, 目標の内容を高めていくのである。しかし, とときには勝負に関係して, 時間的限度や空間的制限があるときは, これに統計的手法の管理を入れて, ロ

スの少ないように努力する。しかし、これも本人の体力、気力によって左右されることはいうまでもない。したがって、目標の設定に無理があってはならない。無理すれば、必ず次には自己自らがダメになる破目になるからである。

しかし、人は決して目標の実現をアキラメてはいけない。必ず、自己の独特の能力があるからである。これなら他人に負けないというものがある。人は、それを一日も早く実現するように努力しなければならないのである。そのためには、5, 4, 3, 2, 1という学習の目標の設定と5, 4, 3, 2, 1という学習結果のバランスを取りながら、自分のペースに合った学習速度を定めなければならない。

人によっては、自分のペースで相当のところまでいって、自分のペースを正確に守っている人を見かけることがある。それはそれでよいとしても、人である以上、また、ときには自分のペースを破って少し変化のある速いペースと幅のあるスペースに出てみる必要がある。もちろん、自分のペースの変換には危険を伴う。しかし、虎穴に入らずんば虎兇を得ずの言葉のとおり、ときには人間だったら命をかけたカケをやってみなくては一人前にならないのである。この場合の学習と評価は大変なテーマである。成功の確率が、百分の一くらいかもしれないが。

要するに、学習と評価は人の行動における永遠のテーマである。これでよいというプランがあるわけではない。学習と評価は人それぞれの特長に応じて出てくるものである。ここに教育の困難さもあれば、面白さもあるのであろう。

私が度々公表する統計的管理法も、一つの評価法には違いない。しかし、これは心のない物質世界の評価法である。人間はそんなに簡単なものではない。といて、この評価法が使えないかということでもない。比較的、物としてコントロールできる場面には、ある程度は利用できるのである。人間は心があるのであるから、心と身の二つの因子を同時にコントロールできるものを発見しなくてはならない。統計的にいえば、心身相関のコントロールである。すなわち、心身相関の問題に外ならない。これは、人間の永遠のテーマではある。心身相関の人としての生命の現象である、スポーツ場面での学習と評価は、実は心身相関の問題なのである。私たちは、理論的にコントロールの理論を作りあげたかと思うと、そのときには、既に、心身の鳥は飛びさって、その時点にはいない。やったと思ったことも、マボロシの如く消え去り、また天雷に打たれて、あとかたもなく消え去っているのに気がつく。

スポーツにおける学習と評価の問題は、「いわゆる、全身全霊をもって体得しなければならない。」と結論しなければならないのであろうか。「う〜ん」残念だと思ってもしかたがない。そこに残されたものは、ひとりの人間のアワレなタメイキだけになる。

それは、ちょうど若い時に弾の下で戦っていたときの自分の行動に対する学習と評価の問題を思い出させる。そこには、毎日空しい勝負と生死の関係だけがあったのである。そう考えると、スポーツにおける学習と評価も勝負にまつわる空しいものなのであろうか。

いや、私はスポーツ教育における学習と評価は空しいものであってはならないと思う。そこには若さがある。理論を越えたエネルギーが横溢している。一見、たしかに、無念無想の心身の状態かもしれない。しかし、それは、一転して、勝を意識して、勝ち取ろうという、アイデアと意志の力としての有念有想へと転換していく力強いエネルギーの燃えしきる過程ともいえる。だが、それは世俗的な暴走ではない。そこには、冷静な、学習と評価の相互相補の人間味のある生命としての行動がある。そして、論理的には量と質の弁証法的進展と、学習と評価の弁証法的過程の重層的多次元の情報の流れともいえる。

私はどちらかといえば、数理を主とし、統計理論を駆使するものである。しかし、けっして数字におぼれているものではない。数は量としての量的表現である。といて、万全なるものとは思っていない。ただ、思惟的に質と質的表現で思弁するだけにとどまらず、教育における学習と評価を定量化することによって、少しでも生命の実態に近づこうと努力しているものである。しかし、道遠くして、既に日暮れたの感がないでもない。しかし、私は生き続けるかぎり、この苦闘を続けたいと思っている。

私は、ここに敢へて、学習と評価の問題を取り上げたのは、日本学校体育研究連合会に参加される学校体育関係の皆様にごへてもう一度、この問題を根底より見直してみしてほしいからである。また、日本スポーツ教育学会の人々にも同じことをお願いするのである。

連合会はこのテーマをより実践的に、スポーツ教育学会の人はより理論的にアプローチしてほしいからである。

日本学校体育研究連合会は、漸く、その基盤の構築より離脱し、その実践研究の上部構造の建立に邁進し続け出したし、スポーツ教育学会は、その姿を漸く地上に現したところである。

願わくば、両者の協力によって、「学習と評価」というテーマに挑戦されることを願っている。

これを更に、具体的にお願ひすれば、日本学校体育研究連合会の会員の皆様は、個人的にはスポーツ教育学会に参加されて、個人の研究を発表していただきたいし、日本スポーツ教育学会の皆様は裏から日本学校体育研究連合会における県単位、または学校単位の研究に参加されて、わが国の青少年のスポーツ教育に活を与えてくださることであるということである。

私はまったく、この二つの組織が表裏となって働くとき、世界の人に尽くす若い人たちの体力、気力をつくりだすものと信じているのである。

考えてみれば、日本学校体育研究連合会と日本スポーツ教育学会との関係は、身と心との相関関係と同じように作用しているようである。それは日本スポーツ教育学会が心としての働き、日本学校体育研究連合会が身のように相互に表裏して、日本のスポーツ教育の重要な役目を果たしているのである。

最後に私は再び二つの組織の今後の相互扶助的の共存共栄としての進展を願うや切なるものがある、といてこの拙文を終る。



学校における 「ダンス」の動向に思う

お茶の水女子大学教授・舞踊学

松本 千代栄

I 世紀末の胎動と新生

19世紀末から20世紀初頭にかけては、新しい運動文化が台頭し、従来の形式性を脱して、より流動的な運動形式が出現している。20世紀末の現在、我々の社会には“ダンスの時代”の到来とも称されるダンス・フォア・オールの諸活動がおこっている。また、国際的に注目されるバレリーナも出現し、他方に、独自の身体形式を形成した舞踏派の出現をみる。我々にとっては、かつてなかった瞳目の時代と言わなければならない。来たるべき新時代に備える展望のために、かつての転換の様相をみてみよう。

F. デルサート(1811～1871)にはじまる内的感情と外的運動形式を関連づけて美しく運動するという合法性を求めた研究は、メンゼンディークやカールマイヤーなどに継承され、より自然で感情の流出する運動形式として発展した。また、J. ダルクローズ(1865～1950)は、ユーリズミックスとしてリズムと動きの関係を追究し、R. ボーデ(1881～1970)は、緊張・弛緩のリズミカルな全体性をとらえ、いわゆる“表現体操”としてリズムと身体教育に新生面を拓いた。

19世紀末のアメリカでは、イサドラ・ダンカン(1878～1927)が生誕し、純粋な感情の流出を叫び、汎世界的活動をもって芸術の自然と自由の火を燃やした。大学教育では、D. A. サージェントがギルバート・システムを導入し、審美的ダンスとして流動的・審美的性質を強調する。当時、一般的に教育の場のダンス形式であった、ヨーロッパの国々の広範囲に亘るフォークダンス(わが国にも明治期遊戯に導入された)やアメリカのカントリーダンスの中に、より科学性に立ち、より生命の自然と美を求めた体操やダンスが出現したのである。1913年ごろには、ナチュラル・ダンスが提唱され、“ナチュラル・リズミカル・エクスペッション”が生まれて、来たるべき創造的芸術経験としての“クリエイティブ・ダンス”の時代を準備する。

すでに明らかなように、M. ドウブラーによって拓かれた、高等教育機関の研究、教育に価する内容としてのクリエイティブ・ダンスは、今日の全米にひろがる舞踊文化と教育研究の多様な専攻課程を成立させるに至った源であり、その著によって舞踊創造経験の意義を論的に確立している。即ち、心身の有機的統一としてのバイオロジカルな視点を保持しながら、人間の生命的構造と芸術との本質的関連を見出し、哲学的思惟を進めて創造的芸術経験の価値を論証し、舞踊学を樹立している。そればかりでなく、彼女は既存のダンスを含めたトータルな文化経験の価値を認め、それらを包含し位置づけている。その著の序文に、C. H. マックロイは、「1917年から彼女は新たに舞踊の全分野の研究を始め、ついに、すでに確立していた舞踊の基礎に立脚しつつ、はるかにより自然な、より教育的なタイプを作りだしたのである。……ドウブラーは賢明にも「すべて」のダンス——フォーク、タップおよび「モダン」ダンス等の諸変形もその一部である——の根本的な基礎の研究を追究し続けてきた。…」とし、「『すべて』のダンス形式をそれぞれの本来の地位に統合するのにも役立つであろう。」とその研究を評価している。(「舞踊学原論」所収・訳出筆者)

このようにみる時、ドイツ・イギリスに活躍したR. ラバン(1879～1958)のアート・オブ・ムーブメントの論と実践、モダンダンスの始祖たちの業績を、あらためて教育への視点の提出としても見直さなければならぬと思われる。とりわけ、ラバン・システムを教育に導入し、運動の創造の基底を確立しつつ、体育学をヒューマン・ムーブメントと拡大し、運動(陸上・球技等の)の文化の中に、芸術としての舞踊の視座を包摂しているイギリスの現在は注目すべきものがある。

先の転換期の人々は、常に人間の生命の自然と法則をもとめ、心と身体の融合する運動形式としてダンスを求め、リズムと音との起爆材を得て、内発的な感情と運動の流出を求める歩みを拓いたと認められる。更にダンスを人間の根源性に根ざしつつ、魂を浄化し、感情を豊かにする精神的形式として、ダンスの哲学を樹立した点で際立っている。また、ダンスを身体運動の価値と共に、文化的総合体とみて、個人から集団に亘る多様な価値への着眼をひらいた点も見逃がすことはできないだろう。

運動の文化の夜明けを拓いた19世紀末から20世紀初頭の実態は、いわば、舞踊の本質は何かを求めた時代ともみなされよう。その後の20世紀の中の豊かな舞踊文化の開花の中に、我々はいま世紀末に立つ。新しい世紀の中に、どのような人間文化と人間像を期待するか—どのような舞踊経験を教育の中に包摂するかを考えるために、一つの試論を提出し、舞踊の価値の再認に資するものとしたい。

Ⅱ 舞踊文化と教育 — 「ダンス」学習の基底を考える —

図は、舞踊文化と教育について、舞踊の本質を求めつつ、本質をいかして教育内容を考える視座として図式化している。図式について具体的に述べ、今日的課題への答を導き出してみたい。

先づ **縦軸** に舞踊の文化的形成をみている。即ち、民俗的に発生した舞踊—盆踊・民俗芸能等—は、各々個性ある動きを生み、踊りを愛した人々に淘汰された〈パターン〉の反復と、人間の糾合力として、踊り楽しむ〈集いの形式〉を形成する。それらはやがて個を主張し、より内面化された表現やより高度化された技術や洗練を求めて〈美的形式〉を組成し、芸術的形成に至る。ここでは、人間の「生」の喚起と共存にはじまり、より個と知に目覚めて、表現を新生し感受する文化的形成と、これらの相互補償的關係をもって生成変動する文化間関係を両極のベクトルに示している。形成—成熟—崩壊—新生の回帰の中に活性化される文化をも意味している。

次に **横軸** には、歴史と地域(時間・空間)の中に存続してきた舞踊文化を自他の関係でとらえている。即ち、自分の存在、自分の地域社会、ひいては自国の文化特性と、他に育まれた異文化間の独自と相互交流を示している。我々の生れ育った風土、生活習慣、考え感じ方を反映して、国語が成り立っているように、舞踊もまた、その育み共有した時代感覚をもって自文化としての個性を形成している。1人1人はそれらの継承者であり、同時に創生者として個性ある自己である。更に、今日の地球レベルのコミュニケーションは、自他の接近を密にし、異文化摂取も急速かつ多様であることを認めないわけにはいかない。

E. メセーニは、身体運動の意味を問い、身体運動は人間のみ固有な文化形成であるとその先駆的論をもって今日を導いたが、心身を投じての文化として舞踊に出現する自文化、異文化の成立と、その文化間接触と融合・新生は、人間文化の無限を保証するものでもあろう。

これらの縦軸、横軸によって区切られた **四空間** に、点線囲みをもって例示した舞踊文化の具体名称は、上述の民俗と芸術、自文化と異文化の視点の中でとらえられる。各特性を備えて形成された舞踊文化の例示である。民俗的発生からみると、盆踊や民俗芸能、フォークダンス、スクエアダンス、あ

るいは、ワルツ、タンゴ、ジャズなどの階層社会の中に育まれた集いの形式をも含めて同類化することができる。同様に芸術的形成からみる時は、能狂言やかぶき舞踊、バレエやモダンダンスも同類化される。また、自国としての盆踊、他国としてのフォークダンスと発生をわけることは言うまでもない。しかし、ここでは、現代の急速な文化間交流とその定着をみておかなければならない。バレエやモダンダンスは、むしろ汎世界的な文化としてひろがり、各国、各地域、各舞踊団のより性格づけられた個性をもって自文化として定着しつつあるものであろう。特に、“モダンダンス”は、“自己の言語で語る”創成の表現として、本質的に各自、各地域、各国において、自国のことばで語られることを本質とするものであり、“自文化”として存在を可能にする芸術形式とみることもできよう。

これらの舞踊は、その創成と把握の段階で、それぞれの性格を内包したく動きのパターンを成立させている。盆踊は勿論、ジャズダンスにも型があり、黒人を通じて現代社会の民俗となったジャズは、そのシンコペーションのリズム、衝撃的なアクセントと弛緩、歪みの部分強化と即興性のダンスとして世界にひろがっている。運動と音楽は不即不離の関係をもつが、音楽形式と舞踊形式を知的に結合して舞踊形式を導きだそうとしたルイス・ホーストの著作によっても、運動と音楽との力動的な邂逅と、そこに生誕する個性あるパターンは、誰でもが感知し、認識するものであろう。民俗がより昇華をもとめた芸能には、スペイン舞踊やインド舞踊の洗練と高度化をみることもできる。

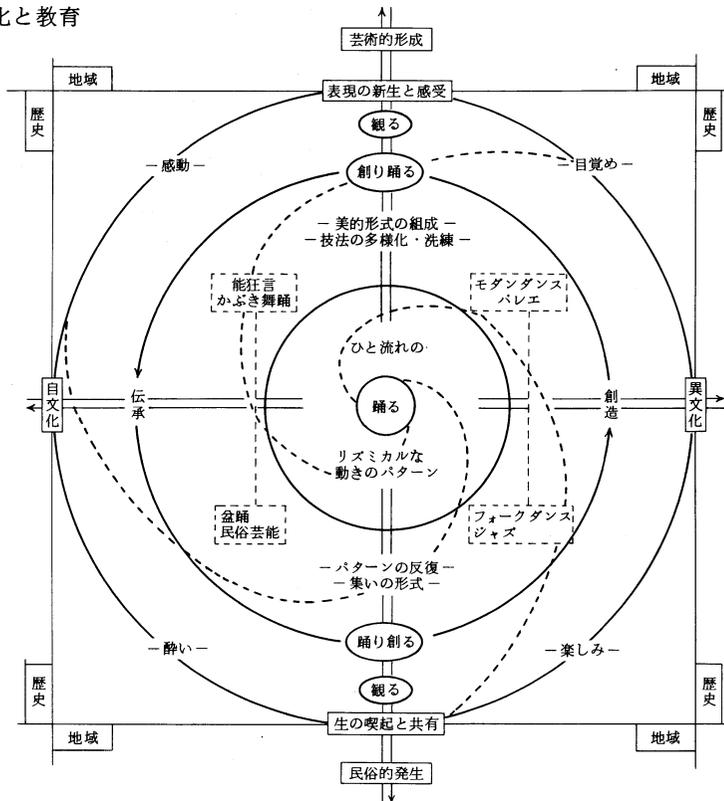
さて、**中心** 即ち縦軸、横軸の切り結ぶところに描いた中心と**三重円**は、舞踊の本質をどうとらえ、どのような行為として接近できるかの視座を示している。踊ると示した中心は、人間存在の「生」と記すべき生命の根源を示す。「ひと流れの動きのパターン」の中に、人間存在の「生」の形式の祖型を認め、ここに舞踊の原点の出現 — 有機的統一としての身体形式と感情形式の溶融する最少限の単位 — を認めている。**外円** は、これらの中心の拡がりとして、舞踊の踊り視る行為を示し、ここでは、陶醉し、楽しみ、また感動し目覚める、すべての人々にひらかれた文化の地平を示している。**中円** には、創り踊り、踊り創る行為として、創造と伝承の回帰を示している。常に新しい表現に挑戦して自己を実現し、表現世界を確立する創造は、人間のみをなし得る文化活動であり、むしろ、人間を人間たらしめる本質的行為である。創られた所産は、民俗上には人々に愛されて読人知らずとなり、芸術上には名作として伝承され文化の型をつくり定型化する。典型としての遺産をのこす。身体の「知」と精神の「知」を止揚しつつ実現される、創り踊る行為は、人間文化の核をなす身体形式として、すべての文化の母胎とみなされる人間の本質である。

これらを統括する **渦流** の点線は、ダイナミズムと無限の構造・機能を示している。「生」というべき「踊」としての「生命的形式」は、ひと流れのリズミカルな動きのパターンに、その本質を潜在させ、パターンは単なる型ではなく、ある性格を内包し、ある感情を内在させたひと流れの動きとして、演じる主体を活性化し、生命の根源をゆきぶりつつ、無限の感性世界を拡大する。渦巻状に記した点線は、これらの生命的なダイナミズムの出現・開花・転生・新生の回帰と無限の形成を示している。これらの図式は、多様な文化を包摂しつつ、既存と創成をふまえ、最終的に舞踊文化の本質は、ひと流れの動きに凝集されていると観る舞踊観であり、ここに舞踊教育の原点を重ねることができるとするものである。舞踊の根源理法の象徴と考え、提出した。

Ⅱ 授業研究の進展を望む

あらためて言うまでもなく、今日の学校における「ダンス」は、昭和22年学習指導要綱（文部省）

舞踊文化と教育



に出発している。新たに「ダンス」の名称をとり、「表現技術・創作・鑑賞」をとりあげ「民踊及び参考作品」を付して、自己表現と伝承のダンスの二方向をもって今日に至るダンスの質的方向を示した。困難はあったが各方面の実践的研究も進み、“大好き、好き”のダンス授業が出現している。更に、ダンスの部活動はめざましい発展をみせ、例えば、東京都高等学校保健体育研究会主催の創作発表にみるように、各県レベル・全国レベルでのプログラム充実が目立っている。そこに展開される演のみごときは、ダンスに魅かれる若い生命の象徴であり、また、この道の指導者の40年の研磨の証でもあろうと感銘を深くする。スポーツのチャレンジのように、ダンスもチャレンジされた。また、民俗芸能を学習に、運動会にとり入れるくふうも、各地域で静かに根づいている。年月の成果が漸く夜明けのときを迎えるかに見えるのである。

授業研究は、常に流動的な性質をもち、それだけに確かな内容、客観的な学習法が求められる。体育カリキュラムの限られた時間の中で、何を選び、何を指導し、何を主体の側にゆだねるかは重要な問題である。限られた学習時間は、その時期を楽しく充実すると共に、人生の中の運動愛をよびます核でもある。教えるべきは教え、ゆだねるべきはゆだねて人間とダンスの密度濃い出会いの刻としなければならないだろう。対処療法としてでなく、人間と文化の本質を見極めるべき刻であろう。

課題学習として、創作学習の内容と方法をモデル化し、大好きな授業を実現した授業研究の、基底とした考えをここに述べ、視座を提出して、新世紀にふさわしい、「人間」と「ダンス」の本質をとらえた授業の進展を望みたい。

豊かな心とじょうぶなからだの育成

— 運動の生活化をめざした体力づくり —



東京都八王子市立陶鋒小学校
校長 尾藤 浩三



学級数 17
児童数 660名
体育主任 教諭 菊池 彰

〒193 東京都八王子市犬目町 56 番地 ☎ 0426-64-3229

1. はじめに

本校は、心とからだの健康づくりをめざし、昭和55年度から一貫して、「豊かな心とじょうぶなからだの育成」を研究主題として、八王子市研究指定校から文部省指定体力づくり推進校と、この五年間体育科を中心に研究を進めてきた。特に、この三年間は、「運動の生活化をめざした体力づくり」を副主題として、全教職員が、①体育科授業の充実部会、②学級指導推進部会、③環境整備部会、④生活化推進部会、の4つの部会のどれかに所属し、学校教育活動全体を通して取り組んできた。この中から、体育科授業について、主に述べてみたいと思う。

2. 研究の内容

「運動の生活化」とは、子ども達が生涯を通して運動に親しみ、生活していく中で、運動することの楽しさや喜びを体得していく素地をつくるもの、と考えた。そこで、主題達成のためには、体育科の授業を充実させ、楽しい体育を追究し、実践することが重要であるとおさえた。

以上のことから、次の3点について共通に理解し、どの学級も基本的には共通した指導をすすめることを重視してきた。

- (1) 子どもがめあてをもって取り組むことが楽しい体育につながり、ひいては一人一人の子どもの調和のとれた体力を養うことにつながる。そのために、学習指導案の中に学習課題を位置づけ、子どもが主体的に取り組める手だてを講じた。
- (2) 子どもにとって楽しい体育とは、
○力いっぱい運動できたとき、
○新しいことを発見したとき、
○めあてが達成できたとき、
○友だちと仲よく協力できたとき、
○先生や友だちに認められたとき
ととらえ、これらが相互に関係した中に楽しさが存在する、ととらえた。
- (3) 子どもにとって、目標が達成しやすいように学年の目標を設定し、1時間の学習に具体化し、示すことにした。

- 1学年 — だれとでも仲よくし、楽しく運動する。
- 2学年 — 仲よく助け合いながら、楽しく運動する。
- 3学年 — 友だちと協力し、元気に楽しく運動する。
- 4学年 — 友だちと協力し、力いっぱい運動する。
- 5学年 — 友だちと励まし合い、最後まで力いっぱい運動する。
- 6学年 — 自分の目標をもち、最善をつくして運動する。

以上のことから、本校では次のことに留意して実践してきた。

- 運動量をふやし、運動の質を高める。

(5) 学習指導の過程

段 階	固定施設を使った運動	段 階	あてっこボール投げ遊び
運動に 親しむ (15×2)	◦手作りの固定施設を使って、いろいろな動きをする。	はじめの ゲーム (30×2)	◦ボール投げ遊びの方法を知り、ゲームをする。 ◦チームを作り、ボール投げ遊びを楽しむ。
運動を 工夫する (15×4) 本時 $\frac{2}{4}$	◦手作りの固定施設を使って、いろいろな動きを工夫し、変化のある動きをする。 ◦手作りの固定施設を使って、工夫した動きをまねたりして、アスレチック遊びをする。	工夫した ゲーム (30×10) (45×1) 本時 $\frac{8}{11}$	◦相手をねらって、投げ当てたりボールをよく見て避けたり捕ったりして簡単なゲームをする。 ◦いろいろなゲームをしながら、身についた技が生かせるよう運動をする。 ◦チーム対抗のドッジボール大会

(6) 本時の指導

(ア) ねらい

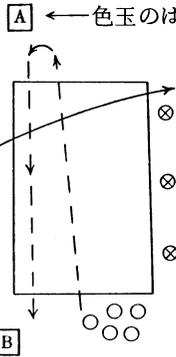
- 手作りの固定施設を使って、知っている動きや、工夫した動きをして楽しく遊ぶことができる。
- ボールをあてられないように走りぬけたりして楽しくゲームができる。
- ルールを守り、みんなで仲よく運動できる。

(イ) 展 開

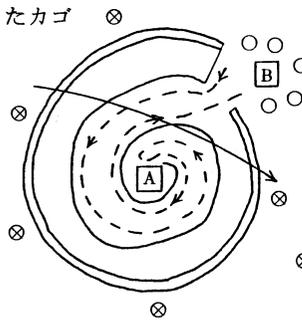
段階	学習内容	学習課題	学 習 活 動	教師の働きかけ	備 考
	1. 集合 本時のねらい について知る		◦グループごとに集合する。		
展 開	2. 固定施設 を使った運動	◦知っている動きを工夫し、変化のある動きをする。	◦知っている動きをさらに工夫し、変化のある動きをする ◦6つのグループに分け、それぞれのコースが、同時にスタートする。	◦リーダーを先頭に運動をさせる。	
	3. あてっこ ボール投げ遊 び ◦第1ゲーム (2分×2) ◦話し合い ◦第2ゲーム	◦すばやく集まる。 ◦内野はボールから目を離さずに走る。 ◦外野は体の正面でボールを捕るように動く。	◦ゲームの組み合わせ、ルールを確認する。 ◦協力してゲームをする。 1コート A : B 2コート C : D 3コート E : F	◦ルールはみんなで話し合って確認させる。 ◦全員がゲームに参加できるようにする ◦交代はできるだけ早くさせる。	成績表 ボール 色玉 色玉入 れ 時 計

- ・話し合い
- ・第3ゲーム

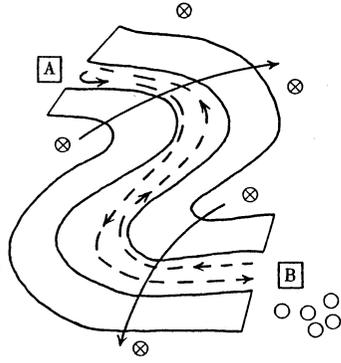
1コート



2コート



3コート



⊗チームが投げ合うボールの中を、○チームがAのカゴの色玉を移す。

⊗チームは外のラインから中に入ってはいけない。

○チームは、ボールに当てられないように、Aのカゴから色玉をとり、Bに戻る

整理	4. 成績発表		・成績表に記入する。	
	5. 反省	・力いっぱい		・動きのよかったチーム、子どものよい点をほめ、次への意欲をもたせる。
理	6. 次時の予定を知る	運動できたか考える。		
	7. 片づけ			

(ウ) 評価

- ・手作りの固定施設を使って、知っている動きや、工夫した動きをして楽しく遊べたか。
- ・ボールをあてられないように、走りぬけたり、ボールをしっかり投げたりして楽しくゲームができたか。
- ・ルールを守り、みんなで仲良く運動できたか。

※ 資料

あてっこボール投げ遊びのルール

- ・コート往復して色玉をたくさん集めた方が勝ちとする。
 - ・外野からボールをあてられたら色玉をもとにもどし出発点にもどる。
 - ・外野は線を越えないでボールを投げる。
 - ・頭部はねらわない。
- } 最初のルール
- ・1コート(長方形のコート)は片足とびで往復する。
 - 両足をついてしまったら、あてられたと同様に出発点にもどる。
 - ・投げられたボールはとってもよい。
- } 追加したルール

4. 研究の成果

授業研究をつみ重ねていく中で、教師も子どもも少しずつではあるが変容してきた。その一例をあげると

- (1) 以前より、一人一人の子どもの声や願いなど、子どもの実態を的確に把握しよう心がけるようになった。「ドッジボール」では、学習の過程で、使用するボールに配慮したり、ルールも子どもと十分話し合い工夫し実践してきた。
- (2) 一人一人の子どもが「めあて」をもち、学習に取り組むと同時に、学習内容を明確化することに努力してきた。「跳び箱」では、学習内容を正しく理解させ、自己の能力に適しためあてをもたせることにより、子どもは意欲的に学習に取り組み、友達同士教え合い、励まし合って、生き生きと取り組む姿が見られた。
- (3) 体力を高めるためには、運動量を増した授業を展開することの大切さを再確認し、また、運動の質にも配慮した。そのため、教師の説明・指示を簡潔にし、充実した楽しい授業に心がけた。

5. 今後の課題

- (1) 「楽しい体育学習」をめざして授業研究を重ねてきたが、さらに、運動の特性にふれる楽しさを味わわせるよう工夫・改善を加えていく。
- (2) 子ども一人一人に「めあて」を持たせ、その達成に努めてきたが、めあてを達成させるための手だてを更に工夫する必要がある。

以上、体育科授業について述べてきたが、本校では、「運動の生活化をめざして」授業以外でも、先に述べた各部会に別れて取り組んできた。以下、それらについて簡単にふれておきたい。

※ 学級指導推進部会

活動の基本的考えとして、「学級指導」を充実することにより、学級の児童が望ましい人間関係をつくり上げていくことをめざした。それが、たとえば、体育の授業では、認め合い、協力し合い励まし合うという姿になって表れてくるよう努めてきた。(月2回の特設時間の設定)

(1) 保健指導

- ① 歯みがき指導……未処置歯の早期治療を促す「むし歯の木」の作成。歯みがき訓練。染め出し検査。歯みがきカレンダー(長期休業中)。給食後の歯みがき。
- ② 姿勢の矯正……姿勢検査(学期毎)。姿勢体操(帰りの会に行う)。清掃時(雑布で)。

(2) 給食指導

- ① たてわり給食……異学年間の子どもとの交流や仲間づくり
- ② ランチルーム……空き教室を利用して食事室らしく整えた。(月・金はクラス単独で、火・水・木は異学年との交流給食)
- ③ 教室環境の整備……テーブルセンター。配膳台カバー。ペーパーケース。ポスターなど。

※ 環境整備部会

子ども達が、体育科授業や遊びを通して、自ら体力づくりができるような遊具・施設を備えた「動的環境」それと同時に、豊かな心を育むことをねらった「静的環境」をバランスよく組み合わせ作り上げることがめざした。この間に自作した教具・遊具・施設は50有余種である。

主な教具・遊具・施設の例

「ターザンロープ」



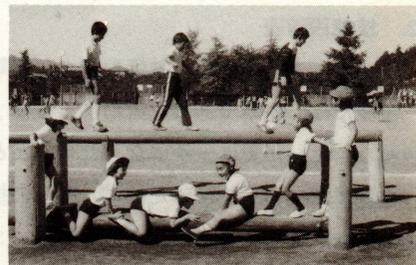
「回旋ロープ」



「ケーブルリールタワー」



「遊動円木」



※ 生活化推進部会

全校児童と一緒に運動を楽しむ場、学年毎にゲームを楽しむ場、好きな友人グループで自主的、継続的に運動する場というような、運動場面の工夫をする一方、子どもが無理なく運動を継続できるための生活時程や実施回数について配慮し、実践してきた。

(1) 体育朝会

週一回、水曜日に実施。集団行動を主として取り上げている。

(2) 業間運動

週二回、火・金曜日の中休みに実施。遊ぶ時間を確保するため、前半は校庭を6つの区画に分け、学年毎にローテーションを組み、自由遊びとし、後半の時間を使っている。自校体操を主に行い、3学期はなわとびを自己の能力に合わせて3種目選び、曲に合わせてとんでいる。

(3) 健康ノート

共に運動をがんばる友達や自分の目標を記入できるようにし、なわとびの回数とび・技能とび、マラソンカードの3種類を低・中・高学年別に作成した。1ヶ月間、自分の目標を達成した子どもには、努力賞を与えている。

(4) スポーツ大会

なわとび大会、マラソン大会の実施。

以上、本校の研究の概要を述べた。今後も一層のご指導ご鞭達をお願い申し上げる次第である。

運動する喜びを味わわせる指導のあり方



神奈川県横浜市立間門小学校
校長 大室 一正



学級数 24
生徒数 907
研究主任 教諭 宇木 良寿

〒231 横浜市中区間門町2丁目222番地 ☎045-622-0005

1. はじめに

本校では過去34年間、体育科を中心にして研究を進め、毎年の研究発表会を通して授業を公開している。また昨年度は、全国学校体育研究大会の会場として、全国の先生方から多くの指導を仰ぐことができた。その研究内容と実践を紹介したい。

2. 技能段階表

— マット・跳び箱・鉄棒を使った運動 —

本校では、主題である「運動する喜び」を、“できなかった技ができるようになった時”“できるようになった技が更に上手になった時”ととらえ、研究を進めてきた。

主題にアプローチするために、運動の技能を分析し、それをもとに、細かい段階をつくる必要があると考えた。そしてそれぞれの段階のポイントや練習のさせ方、指導したい内容を明確にし、段階をふんで指導にあたることにした。

このように児童に無理なく、無駄なく、早く技能を身につけさせるための教師の指導資料として作成したのが、本校の「技能段階表」である。

○ 本校における技能段階表の利用のしかた

① はじめの授業と課題の与え方

段階表の上段に掲げた写真をパネルにして提示し、これから学習する運動を一連の動きとしてとらえさせ、練習の見通しをもたせる。

「これから一生けん命練習して、こんなふうにできるようになろうね。」

「やって見てどこがむずかしいか、自分の目あてを見つけよう。」

② 基本的技能のおさえ

段階表①の段階に述べた指導の要点を、教師がはっきりおさえるべき基本的技能としてとらえ、示範や試技でわかりやすく伝える。

③ 個別指導

㊦ つまづきのある児童に同じような写真を見せ、欠点をつかませる。

「君の手は、こんなふうに曲がっているよ。」「脚がこんなに開きすぎているよ。」

㊧ つまづきを克服させるために、経験させたい動きとして他の動きを取り入れ、具体的な課題で練習させる。

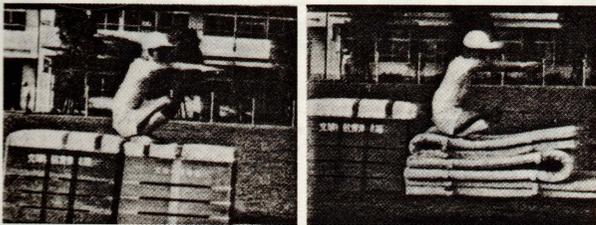
「うさぎとびで、手をついた位置より遠くに足がくるようにしてごらん。」(閉脚とび)

㊨ 進んでいる児童には連続写真を見せ、部分的な動きから一連の動きとしてとらえさせる。

「踏み切ってから腰を高く上げるようにして、くの字の姿勢をとろう。」(台上前転)

④ 補助・用具の工夫

補助の仕方や用具の使い方を教師が知り、安全で正しい、効果的な手だてをほどこすようにする。



(閉脚とび)

※着手時に恐怖感を持つ児童

- 跳び箱を2台連らねて跳ばせる
- マットを重ねて練習する
- 徐々にマットをへらす

⑤ 助言の工夫

児童に与える助言を具体的に分かりやすく伝えるようにする。

「頭で大きく円をかくようにして回ってみよう。」(腕立て前転)

「踏み切ってから、つま先を残すようにしよう。」(台上前転、跳び上がり前転)

「左足と右足がひとつの音になるように踏み切ろう」(開・閉脚とび)

⑥ 学習カードの作成

⑦ 段階表をもとに学年の発達段階に応じて、技能段階を細かくしたり、絵や図を多くとり入れたりにして、自分のめあてを具体的に、はっきりつかませ意欲的に学習できるようにする。

⑧ 技能の要点を児童に分かりやすいことばに直し、簡単な観点で子どもたちが見合い、直し合いをして、教え合いながら学習できるようにする。

⑦ 反省材料として

⑦ 学級の実態を把握し、どんなつまづきが多く見られたか、他に効果的な手だてがないか、段階に無理がなかったかなどの観点で、段階表と対比させながら反省する。

また、他のつまづき、もっと効果的な手だてや助言があれば、段階表に新しくつけ加えていくようにする。

⑧ 学習カードは、児童の学習のあゆみが具体的に記録されているので、自分で、友達同志で評価しあうほかに、教師の学習指導や評価の大切な資料として用いる。

⑧ 授業以外での利用

⑦ 連続写真を教室内に掲示し、いつでも目にして友だち同志、話し合ったり、確かめあったりできるようにする。

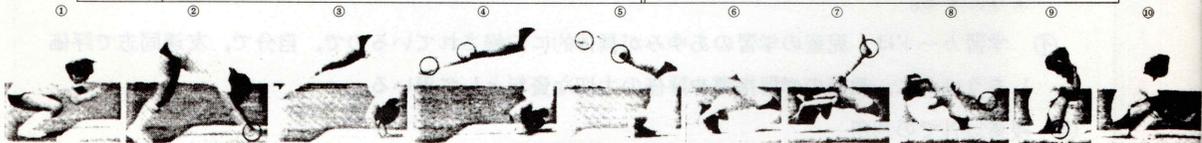
⑧ 放課後、写真を見ながら練習し、友だちに見てもらったり、教師に見てもらったりして、早く技能が高まるようにする。

技能段階表 * 前回り（前転）・伸膝経過前転

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

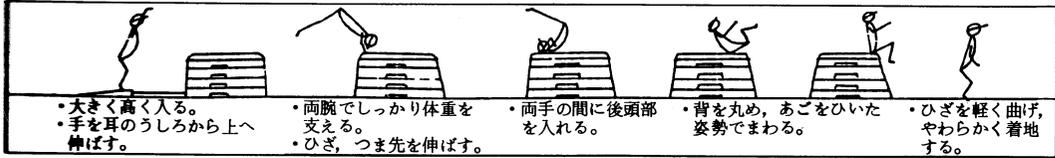


技能段階	指指導の要点	つまずきの例とその手立て
① 両手をついて前回りができる。	<p>写真① 一手は肩幅につき、指を軽く開かせる。</p> <p>力を入れるところ</p> <p>写真③・④ 一頭を両手の中に入れ、後頭部をつけさせる。</p> <p>写真④ 脚を伸ばしながら腰を上げるようにさせる。</p> <p>写真⑤ 一体をできるだけ小さくさせる。 「おへそを見ながら回ろう。」 「ボールのように丸くなって回ろう。」</p> <p>写真⑥ 手のつき離しを意識させる。 「サッと首をさせよう。」</p> <p>写真⑧ 一回り終わる直前に引きつけ、起き上がる姿勢にさせる。 「かかとを、おしりにぶつけるようにしよう。」</p>	<p>つまずきの例とその手立て</p> <p>★手が肩幅につけない児童、指が開かない児童 ・「トーン・トーン」のリズムで、左の写真のような姿勢をとらせる。 ・目をつぶっても肩幅に手をつけ、指も開けるようにさせる。</p> <p>(トーン) (トーン) (ハ)</p> <p>★足と背が伸びきって、起き上がれない児童</p> <p>初めは膝をかかえておへそを見させ、あごをしっかり引かせてゆりかごをさせる。</p> <p>慣れてきたら膝をかかえないで、肩の上に腰がくるような大きなゆりかごをさせる。</p> <p>★左右どちらかに曲がる児童（腕の支持力が平均していないため） ・左の写真のように、曲がるほうのひじを軽く押さえるようにして補助をする。 ・回り始めに、左右の手・足・頭を回転方向に平行につかせるようにさせる。 ・かえるの逆立ちをさせる。 ・いろいろな方向へのゆりかごをさせ、方向感覚を身につかせる。</p> <p>★腕の支持が弱い児童 ・かえるの逆立ちからの足打ちなどを十分に行わせる。 ・足打ちの回数を徐々に多くさせる。</p> <p>★回転力が小さいためにスムーズに前回りできない児童 ・斜面を利用して回らせる。</p> <p>1回目 2回目</p>
② 膝を閉じた前回りができる	<p>○膝が開かないように回り始める時、足先をそろえ膝をつけさせる。 「膝の内側に入れて回ろう。」 「足首の内側に力を入れて回ろう。」→具体的に位置を示すようにする。 「両足をそろえて回ろう。」</p>	<p>★膝や足首が開く児童 ・紅白玉や体育用の帽子などははさんで、回るようにさせる。 紅白玉</p>
③ 連続して、回ることができる。	<p>○間がとぎれないように、5～6回続けて回るようにさせる。 「クルン、クルンのリズムで回ろう。」 「おでこを膝につけるようにしよう。」 ○1回目の終わりが2回目の初めの姿勢になるようにさせる。 ○リズムを変えて回らせる。（早いリズムやゆっくりしたリズムで回らせる。）</p>	<p>★頭がおくれて起きる児童 ・自分のおへそを見ながら回るようにさせる。 ・あごに体育用の帽子などははさんで回らせる。</p>
④ 膝を伸ばして回ることができる。	<p>写真② 手をやや遠くへつくようにさせる。</p> <p>写真③ 腕で体を支えて回らせる。</p> <p>写真④・⑥ 一足首・膝を伸ばすようにさせる。 「足の親指に力を入れて回ろう。」</p> <p>写真⑧・⑨ 起き上がる直前にすばやくかかとを引くようにさせる。 「かかとをおしりにぶつけるようにしよう。」</p>	<p>★膝や足首の伸びない児童 ・2人組で、膝や足首をしっかり伸ばしてから回るようにさせる。</p> <p>・跳び箱を使って練習をさせる。</p> <p>(台に足をのせる。) (屈膝から台をやって膝や足首を伸ばすようにさせる。)</p>
⑤ 膝を伸ばして連続して回ることができる。	<p>○跳び上がるような形から、伸膝経過前転ができるようにさせる。 ○伸膝経過前転が3～4回続けてできるようにさせる。「クルン・クルンのリズムで、大きく回ろう。」</p>	<p>★手を遠くへつけない児童 ・連続うさぎ跳びをさせる。(足を後ろへはね上げるようにさせる。)</p>
前回りを中心とした連続技ができる。	<p>○なめらかに連続できるように、つなぎ方や前後の運動を工夫させる。</p> <p>(例)①前転 → 前転 → ジャンプ(方向転換) → 後転 ②前転 → 前転 → (足交差) → 後転 ③前転 → 前転 → 閉脚前転 → 前転 ④前転 → 伸膝前転 → 閉脚前転 → 前転</p> <p>・ジャンプからすぐにしゃがみこんで、後転にはいるようにさせる。 ・しゃがんだ姿勢で後転にはいるようにさせる。 ・閉脚前転から前転にはいる時、閉脚になりながら前転にはいるようにさせる。 ・ひとつひとつの運動をしっかり区別できるようにさせる。</p>	



台上前転

組



- 大きく高く入る。
- 手を耳のうしろから上へ伸ばす。
- 両腕でしっかり体重を支える。
- ひざ、つま先を伸ばす。
- 両手の間に後頭部を入れる。
- 背を丸め、あごをひいた姿勢でまわる。
- ひざを軽く曲げ、やわらかく着地する。

もうすぐできる	ひざの屈伸を利用して前にまわる		とび上がり前転		マットを重ねてまわる		
で	級	段階	気をつけること				印
き	5	後頭部について台上前転ができる。	<ul style="list-style-type: none"> ◦手を耳のうしろから上へ伸ばす。 ◦手と手の間に後頭部がつくようにする。 		<ul style="list-style-type: none"> ◦両手をそろえてつく。 		↓
る	4	腕で体をしっかり支えてから台上前転ができる。	<ul style="list-style-type: none"> ◦腕をしっかり伸ばして、体を支えてからすばやく頭を入れる。 •頭を早く入れすぎない。 •腕を早く曲げすぎない。 				↓
も	3	ひざやつま先を伸ばして台上前転ができる。	<ul style="list-style-type: none"> ◦ふみきったあと、ひざ、つま先を伸ばす。 •両足をそろえてふみきる。 •足首・親指に「ギュッ」と力を入れる。 		<ul style="list-style-type: none"> •その場でとび上がり、自分のひざ、つま先の伸びを確認する。 		↓
と	2	腰を高く上げて台上前転ができる。	<ul style="list-style-type: none"> ◦ふみきりを強くする。 •第1ふみきりと第2ふみきりの間を大きくとる。 •ふみきった瞬間、大きくとび上がる。 		<ul style="list-style-type: none"> ◦ゴムを使って高くとぶ。 •だんだんゴムを高くする。 		↓
上手にできる	1	大きなたび上がりから、脚を伸ばした姿勢で台上前転ができる。	<ul style="list-style-type: none"> ◦ふみきってから大きく弧をえがくようにして手をつく。 •ふみきりから手をつくまでの時間を長くする。 •ふみきり板を徐々に離す。 				↓

反省	
----	--

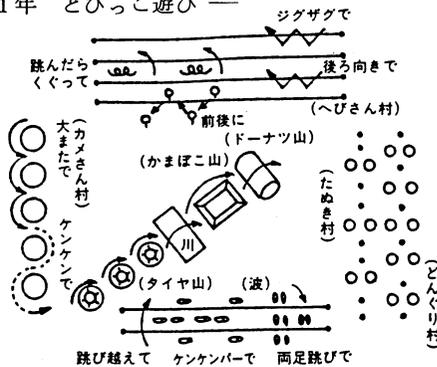
3. 指導計画表

— 走る・跳ぶ運動 —

走る・跳ぶ運動はだれにでもできる運動であるが、学習が単調になりやすく児童の興味・意欲を失わせる指導の傾向が多くみられた。そこで児童が目を輝かせて走る、全力を出しきって跳ぶというような、活動すること自体の喜びを味わわせる指導の工夫が大切であると考え、指導計画表を作成した。

① 学習場面の工夫例

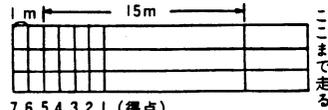
— 1年 とびっこ遊び —



- ・変化に富んだ動物村を設定し、それぞれの場所でいろいろなとび方を発明・工夫させる。
- ・グループごとに動物村をローテーションさせ、運動量を十分に確保させる。
- ・毎時間ドリルしていき、多様な動きを身につけさせる。

— 6年 リレー・短距離走(3秒間走) —

- ・スタートとダッシュの練習をする。



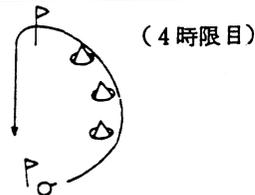
スタート地点……各自選ぶ

- ・15mを3秒以内で走り通せるようにする。
- ・スタート地点を自分の力に応じて選び、得点を競うことにより意欲を持たせる。

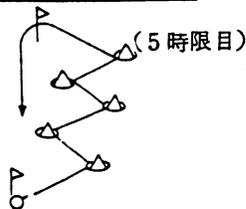
② 課題の工夫例

— 3年 全力走 —

カーブをすばやく走ろう



急に方向を変えて走ろう

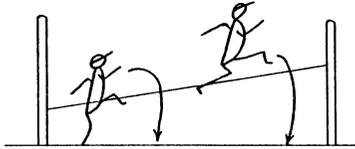


- ・同じ全力走でも、直線や曲線をスピードをつけて走る、ジグザグにすばやく方向を変えて走る、物を持って走る、などのようにいろいろな走り方を課題としてとり上げる。このことにより、同じ走る動きでもさまざまな走り方を身につけることができ、また興味を持って学習することができる。

— 4年 高とび —

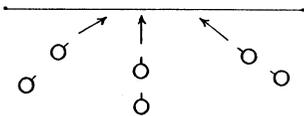
両足・片足ふみきりで自由にとぼう

- 低く張ったゴムを自由にとぶ
- 低い方から自由にとぶ



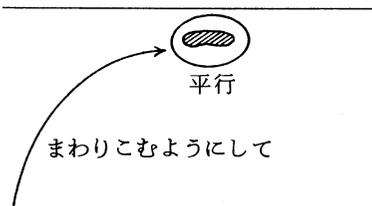
いろいろな方向からとぼう

- 左斜め、正面、右斜めの方向からとぶ



ふみきり足がゴムと平行になるようにしてとぼう

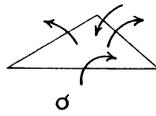
- ふみきり足の足跡をとり、お互いに教え合う。



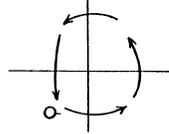
両足・片足ふみきりで連続してとぼう

- ゴムの張り方を工夫してとぶ

• 三角形



• 十文字形

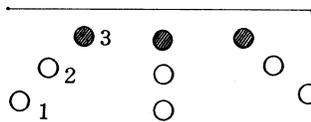


• たてにならべて



3歩助走で調子よくとぼう

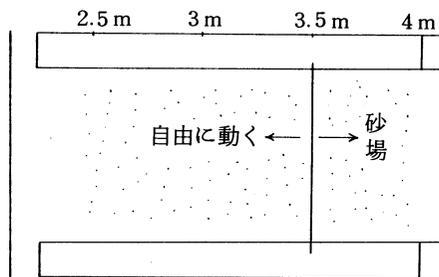
- 1・2・3～のリズムを覚えてとぶ



③ 用具の工夫

— 5年 走り幅とび —

- カーテンレールを利用し、ゴムひもを張り、自由に動くようにする。
- グループごとに、1人1人の目標に合わせて、ゴムをはり、それをめあてにして挑戦する。



あとがき

- 本校の体力づくりとしての特色

- (1) アスレチック施設があり、体育時はもちろん、休み時間、放課後に利用されている。
- (2) 6年生は夏休みに、全員が25m以上泳ぐことを目標に、校内で2泊3日の水泳合宿を行う。
- (3) 業間体育を週2回設け、間門体操(低・高)、なわとび、持久走などを行っている。
- (4) サッカー、バスケット、合宿、マーチングバンドなどの早朝練習を行っている。

種目選択による陸上競技・器械運動を

楽しむ学習指導はどうすればよいか



沖縄県浦添市立神森中学校
校長 仲村 起徳



学級数 33
生徒数 1,355名
研究主任 教諭 東恩納 吉一

〒901-21 沖縄県浦添市字沢岬1435番地 ☎0988-77-5165

1. テーマ設定理由

学校体育は、運動を楽しむまた身体的必要を充足し、生涯にわたって自発的な運動参加に結びつくような学習を計画しなければならない。従って、全人的な発達をはかりながら、運動の楽しさにふれさせ、自発的学習活動の展開や工夫のできる生徒を育てようとするものである。

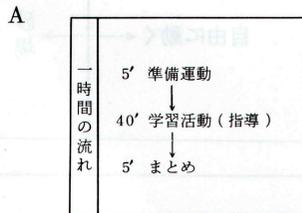
さて、これまでの本校における体育は教師中心の授業形態であった。内容は生徒の興味関心にかかわらず、教師の側から一方的に与えられ、生徒の側からみれば「やらされる」ものであった。その結果、生徒はそれぞれの運動の喜びや感動を存分に味わうことができず、また自発的な学習を進めることができなかった。技術の反復練習という全般的に単調にならざるを得ない授業が、多くの体育嫌いを育てた一因にもなっていた。

このようなことから、「種目選択による陸上競技・器械運動を楽しむ学習指導をどうすればよいか」というテーマを設定して研究を進めることにした。

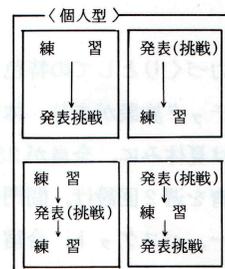
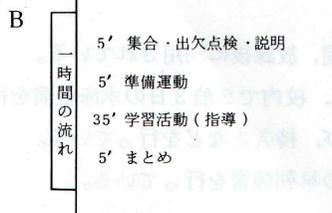
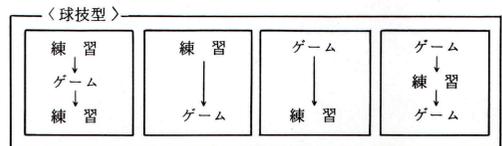
2. 研究内容

- (1) 学習指導計画と実践
- (2) 学習資料の活用と評価
- (3) 学習の進め方

◎ 1時間の授業の流れ



◎ 学習活動としての流れ



5. 実践例

◎選択単元

その1

対象 3年女子 3・4組42名

授業者 大 浜 淑 子

単 元 器械運動の種目選択

(1) 運動の特性

① 一般的特性

障害に挑戦して克服したり、技に挑戦して達成するところに楽しさのある運動である。

② 生徒からみた特性

自分のやりたい種目を選んで楽しむことができる。

(2) 学習のねらいとみちすじ

① 学習のねらい

マット運動、とび箱運動、鉄棒運動、平均台運動の中から、自分の興味、関心や、力にあった種目を選び楽しむ。(1種目～2種目選択)

② 学習のみちすじ

めあて1 ・マット運動、とび箱運動、鉄棒運動、平均台運動をやってみて、やりたい種目を選んで楽しむ。

めあて2 ・自分の選んだ種目を楽しむ。

(3) 学習活動の指導

はじめ 50'	<ul style="list-style-type: none"> ○種目を選択する必要性と意義を知る。 ○学習のすすめ方を理解する。 <ul style="list-style-type: none"> ・グルーピング、役割分担、学習資料の活用、学習カードの活用 	用 具 <ul style="list-style-type: none"> ○低鉄 ○マット ○セフティーマット ○とび箱 ○踏切板 ○平均台 <ul style="list-style-type: none"> ○高鉄 								
なか 50'×2+50'×8	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="text-align: center;">学 習 活 動</th> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;"> めあて1 マット運動、とび箱運動、鉄棒運動、平均台運動をやってみて、やりたい種目を選んで楽しむ。 </td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ○それぞれの種目をやってみる。 ○やりたい種目を選ぶ。 </td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;"> めあて2 自分の選んだ種目を楽しむ。 </td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ○楽しみ方を深める活動をする。 </td> </tr> </table>	学 習 活 動	めあて1 マット運動、とび箱運動、鉄棒運動、平均台運動をやってみて、やりたい種目を選んで楽しむ。	<ul style="list-style-type: none"> ○それぞれの種目をやってみる。 ○やりたい種目を選ぶ。 	めあて2 自分の選んだ種目を楽しむ。	<ul style="list-style-type: none"> ○楽しみ方を深める活動をする。 	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="text-align: center;">指 導</th> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・場の工夫がなされているか。 ・安全面(自己管理)はどうか。 </td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の力に合った種目を選んでいるか。 ・助けあい、認めあう学習活動になっているか。 ・楽しみ方を深める工夫がなされているか。 </td> </tr> </table>	指 導	<ul style="list-style-type: none"> ・場の工夫がなされているか。 ・安全面(自己管理)はどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の力に合った種目を選んでいるか。 ・助けあい、認めあう学習活動になっているか。 ・楽しみ方を深める工夫がなされているか。
学 習 活 動										
めあて1 マット運動、とび箱運動、鉄棒運動、平均台運動をやってみて、やりたい種目を選んで楽しむ。										
<ul style="list-style-type: none"> ○それぞれの種目をやってみる。 ○やりたい種目を選ぶ。 										
めあて2 自分の選んだ種目を楽しむ。										
<ul style="list-style-type: none"> ○楽しみ方を深める活動をする。 										
指 導										
<ul style="list-style-type: none"> ・場の工夫がなされているか。 ・安全面(自己管理)はどうか。 										
<ul style="list-style-type: none"> ・自分の力に合った種目を選んでいるか。 ・助けあい、認めあう学習活動になっているか。 ・楽しみ方を深める工夫がなされているか。 										
まとめ 50'	<ul style="list-style-type: none"> ○選択の意義やねらいが達成されたか。 ○楽しく活動できたか。 									

その2

対象 1年3・4組 男子44名

授業者 東 恩 納 吉 一

単 元 陸上競技の種目選択（10時間抜かい）

(1) 運動の特性

① 一般的特性

走・跳・投の運動で競争したり，記録に挑戦して楽しむ運動である。

② 生徒からみた特性

自分のやりたい種目を選んで楽しむことができる。（走・跳・投各一種目）

(2) 学習のねらいとみちすじ

① 学習のねらい

50M, 100M, 50MH, 走高跳, 砲丸投より自分に合った三つの種目を選んで楽しむ。

② 学習のみちすじ

めあて1. 走・跳・投の運動をやってみて，やりたい種目を選び，混成競技を楽しむ。

めあて2. 自分の選んだ種目を深め混成競技を楽しむ。

(3) 学習活動と指導

はじめ 50'	<ul style="list-style-type: none"> ○種目選択をする必要性と意義を知る。 ○学習の進め方を理解する。 グループング, 役割分担, 安全 ○学習資料・学習ノートの活用 	
なか 50' × 8	学 習 活 動	指 導
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> めあて1. 走・跳・投種目をやってみて，やりたい種目を選び混成競技を楽しむ。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ○各種目をやってみる。 ○走・跳・投の三種目選ぶ。 ○得意種目を決める。 ○サーザント測定, 50M測定 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> めあて2. 自分の選んだ種目を深め混成競技を楽しむ。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ○楽しみ方を深める活動をする。 <ul style="list-style-type: none"> • 記録に挑戦する。 • 競争し合う。 • 練習の工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ○場の工夫がなされているか。 ○安全面に留意しているか。 ○自分の力に合った種目を選定しているか。 ○協力し合い，認め合う学習活動になっているか。 ○楽しみ方を深める工夫がみられるか。
まとめ 50'	<ul style="list-style-type: none"> ○選択の意義やねらいが達成されるような活動がみられたか。 ○楽しく活動できたか。 	

◎種目単元

長距離走

ア 一般的特性

長い距離を自分にあったペースで走ったり、記録へ挑戦するためにスピードよく走ったりして競争を楽しむ運動である。

イ 生徒から見た特性

- とても苦しいので走っていて楽しくない。
- 一生懸命がんばって記録が伸びたり、走り終えた時は満足感が大きい。

ウ 学習のねらいとみちすじ

(ア) 学習のねらい

自己のペースを知り、調子よくスピードのある走り方で長く走り通し、記録に挑戦したり競争して楽しむ。

(イ) 学習のみちすじ

- めあて 1. 自分にあったペース配分で長い距離を走りとうして楽しむ。
- めあて 2. スピードがあり力強い走りで競争したり記録へ挑戦して楽しむ。

エ 学習活動と指導

は じ め 50'	<ul style="list-style-type: none"> ○学習のねらいを理解し、全体の見通しをもつ グルーピングと役割分担 ○学習場所、用具の使い方を知って安全な学習の仕方を知る ○学習資料・学習ノートの活用 	器 具 ・ 用 具	<準備> ・ストップウォッチ ・記録ノート					
な か 50' × 8	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">学 習 活 動</th> <th style="text-align: center;">指 導</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="padding: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> めあて 1. 自分にあったペース配分で長い距離を走りとうして楽しむ。 </div> (1) 個人のペースをきめる。 ○個人で気持ち良く走れるスピードで400m～600m走る→記録測定(試走タイム) ○試走タイムの100m～200mの平均ラップタイムを出し個人のペースとする。 <計算例> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> $400mの試走タイム \quad 3' 25''$ $3' 25'' \div 4 \div 51''$ </div> (2) 個人のペースを定着させる ○同じペースで走る距離をのぼす。 <例> ○1,000mまで走る, 1,500m まで走る ○ペースがおちるまで走る。 </td> <td style="padding: 5px; vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> ○場の工夫がなされているか。 ○安全に注意しているか。 ○めあてにそって活動しているか。 ○協力して学習しているか。 ○めあての解決の仕方がわかっているか。 ○資料は効果的に活用されているか。 ○練習に工夫はみられるか。 </td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> めあて 2. スピードがあり力強い走りで競争したり記録へ挑戦して楽しむ。 </div> (1) 個人のペースを高くする。 </td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	学 習 活 動	指 導	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> めあて 1. 自分にあったペース配分で長い距離を走りとうして楽しむ。 </div> (1) 個人のペースをきめる。 ○個人で気持ち良く走れるスピードで400m～600m走る→記録測定(試走タイム) ○試走タイムの100m～200mの平均ラップタイムを出し個人のペースとする。 <計算例> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> $400mの試走タイム \quad 3' 25''$ $3' 25'' \div 4 \div 51''$ </div> (2) 個人のペースを定着させる ○同じペースで走る距離をのぼす。 <例> ○1,000mまで走る, 1,500m まで走る ○ペースがおちるまで走る。	<ul style="list-style-type: none"> ○場の工夫がなされているか。 ○安全に注意しているか。 ○めあてにそって活動しているか。 ○協力して学習しているか。 ○めあての解決の仕方がわかっているか。 ○資料は効果的に活用されているか。 ○練習に工夫はみられるか。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> めあて 2. スピードがあり力強い走りで競争したり記録へ挑戦して楽しむ。 </div> (1) 個人のペースを高くする。		
学 習 活 動	指 導							
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> めあて 1. 自分にあったペース配分で長い距離を走りとうして楽しむ。 </div> (1) 個人のペースをきめる。 ○個人で気持ち良く走れるスピードで400m～600m走る→記録測定(試走タイム) ○試走タイムの100m～200mの平均ラップタイムを出し個人のペースとする。 <計算例> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> $400mの試走タイム \quad 3' 25''$ $3' 25'' \div 4 \div 51''$ </div> (2) 個人のペースを定着させる ○同じペースで走る距離をのぼす。 <例> ○1,000mまで走る, 1,500m まで走る ○ペースがおちるまで走る。	<ul style="list-style-type: none"> ○場の工夫がなされているか。 ○安全に注意しているか。 ○めあてにそって活動しているか。 ○協力して学習しているか。 ○めあての解決の仕方がわかっているか。 ○資料は効果的に活用されているか。 ○練習に工夫はみられるか。 							
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> めあて 2. スピードがあり力強い走りで競争したり記録へ挑戦して楽しむ。 </div> (1) 個人のペースを高くする。								

意欲的に取り組む生徒を育成するための 学習指導はどうすればよいか

—生徒が意欲的に取り組むダンス学習を目指して—



鹿児島県立錦江湾高等学校
校長 沖久 教夫



学級数 33
生徒数 1,451
教諭 近藤 伸子

〒891-01 鹿児島市平川町4047 ☎0992-61-2121

はじめに

本校は、昭和57年度から、県教育委員会が提唱している「活力あるたくましい心身をもつ児童生徒を育てるための『山坂達者』実践推進校」の指定をうけて、教育活動全体のなかで、組織的に継続して体力・気力づくりに積極的に取り組んでいる。また、「教科体育」においては、「楽しい体育」の充実のために、「意欲的に取り組む生徒を育成するための学習指導はどうすればよいか」をテーマにして、実践・研究をすすめている。その主旨にそってダンス学習の指導に取り組んだ。ダンスは、自己の感情を身体で表現する自己表現活動である。高校生期は、感情や情緒が深まり、心豊かになる時期であるにもかかわらず、感情表現ともなると心を閉ざしてしまう傾向もみられる。この背景を考えると、これまでのダンス学習のなかで、自己の感情を身体で表現する方法や、存分に体を動かし踊る楽しさを味わうなど、その特性にふれる活動経験が十分になされていなかったことがあげられるのではなからうか。

そこで生徒が「ダンス学習をどのように受けとめているか」についての意識調査を実施した。その結果、主なものをあげると次のとおりである。

1. 恥ずかしさが先にたって、自分の思ったことをうまく表現できない。
2. 動き方が分からないため、積極的な活動ができない。
3. 生徒がダンスの意義を理解していない。

この生徒の実態をふまえて、指導目標・内容等を見通し指導に工夫を加え実践した。

1. 指導目標と指導計画

〈1年〉

指導目標

- (1) 感じたことを恥ずかしがらずにすばやく動きにし、リズムカルに表現することができるようにする。
- (2) 空間や集団のもつ表現性を工夫し、題材にふさわしくまとめ、発表・鑑賞することができるようにする。

時間 時分	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
10分	オリエンテーション	基本的な運動要素 走、歩、跳、屈伸、回転、波動など					モチベーション・エクササイズ					発表会・まとめ		
20	心身のほぐし	即興、動きのスケッチ 〈空間的要因〉					課題解決学習	課題解決学習	課題解決学習	課題解決学習	課題解決学習		小作品づくり	
30														
40														
	発表会													

〈2年〉

指導目標

- (1) 時間の持つ表現性を工夫し、題材にふさわしくリズムカルな動きでまとめ、発表・鑑賞することができるようにする。
- (2) 題材にふさわしい音を工夫することができるようにする。

時間 時分	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	
10分	オリエンテーション	基本運動			モチベーション・エクササイズ										発表会・まとめ
20	心身のほぐし	即興・動きのスケッチ 〈時間的要因〉			課題解決学習	課題解決学習	課題解決学習	作品づくり					動きの修正・まとめ・飾りこみ		
30															
40															
	発表会						中間発表								

〈3年〉

指導目標

- (1) 変化と統一のある作品を創り、発表・鑑賞することができるようにする。
- (2) クラス発表会の企画・運営ができるようにする。

時間 時分	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	
10分	オリエンテーション	モチベーション・エクササイズ												発表会・まとめ	
20	心身のほぐし	即興・動きのスケッチ		作品づくり						動きの修正・まとめ 飾りこみ					VTR鑑賞・動きの分析
30															
40															
	発表会										中間発表				

2. 授業実践例

一年生女子171名に対しての授業実践例である。ダンスの第一のつまぐきは、恥ずかしさであるといわれている。また、どのように動けばよいか迷うばかりで、動きに結びつかないという生徒もかなり多い。そこで指導にあたって、

- (1) モティベーション・エクササイズ工夫によって、心身を解放して踊る楽しさを味わわせる。
 - (2) ノーテーション・カード(舞踊表記法)・個人ノートの活用や、課題学習の形態をとることによって、できるだけたくさんの動きを経験させ、すばやく動きがだせるようにし、踊る楽しさを味わわせ、豊かに表現する能力や体力を身につけさせる。
 - (3) グループによる創作活動を通して協力や責任など、望ましい社会的態度の育成を図る。
- の3項目をねらいとして、生徒が意欲的に取り組めるよう、次のような工夫をした。

—— 手だて ——

- (1) 個人ノートの活用
(例)

月	日	曜日	天気
学習内容			
1時間目			
自己評価	技能	ダンスの歴史を理解できたか。	
		ダンスの特性を理解できたか。	
態度	態度	運動要素の特徴を理解できたか。	
		意欲的にとりくんだか。	
本時の感想		尺度	○……3点 △……2点 ×……1点
所見			
印			

月	日	曜日	天気
学習内容			
2～6時間目			
自己評価	技能	恥かしがらずに動けたか。	
		体を十分に動かしたか。	
態度	態度	音楽に合わせて楽しく踊れたか。	
		積極的に学習にとりくんだか。	
本時の感想		尺度	○……3点 △……2点 ×……1点
所見			
印			

月	日	曜日	班	メンバー	見せあい	班	
学習内容							
7～11時間目							
自己評価	技能	学習内容を理解できたか。					
		独創的な動きが出せたか。					
		体を充分かせたか。					
態度	態度	楽しく学習できたか。					
		仲間と協力して熱心にとりくんだか。					
		安全に留意したか。					
グループ評価	技能	課題をうまくとらえていたか。					
		まとまりのある動きになっていたか。					
		熱心にとりくんだか。					
本時の感想	尺度	協力していたか。					
		○……3点 △……2点 ×……1点					
所見							
印							

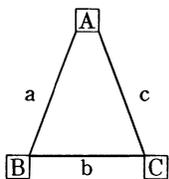
一人ひとりが自己の課題をもって授業にのぞみ、その課題達成に向けて意欲的に取り組むために、個人ノートを作成した。課題の達成状況を把握しやすいように、評価の観点および尺度も具体的に示した。また、毎時間の評価をダンス学習の評価に活用することを生徒に理解させた。このノートの活用は、教師にとっては、一人ひとりの課題やその達成状況の把握および、実態に応じた指導の手だての参考になった。一方、生徒にとっては、評価の観点や尺度が明確にされているので、自己の力の把握および課題設定が容易となり、意欲的に取り組む動機づけになった。

- (2) ノーテーションカードの活用

ダンスにはルールがなく表現が全く自由であるため、初心者にとっては、かえって不自由さを感じることもある。そこで、動きの手がかりとしてノーテーションカードを活用した。ノーテーションとは、身体の動きを、細かい動きまで書きとれるように記号化したものである。これを、即興における動きづくりのよりどころとして応用した。生徒には、①身体を極限まで使って大きく動く、②空間を広く使う、③独創的に動くの3つを心がけるように指導した。

・実践例

(ア) 動きのきっかけをつかむ。



ノーテーションカードを3枚
選択し床に置く。A・B・Cの
箇所では書かれた記号の動きを
つくり、a・b・cの移動空間

では、それぞれがうまくつなが
るような動きを工夫する。それを、3回くり返して
自分の動きを確実なものにする。空間移動の方法は、
直線・曲線・幾何・分数など生徒のレベルや空間の
広さによって変える。また、カードの枚数や動きの
質も、生徒の実態に応じて変える。しかし、ときと
して動きが、片寄りがちになる傾向がみられたので、
その都度助言指導した。

	体全体の動き		普通の高さ
	左・右にターンする。		高い位置で。
	伸びる。速くに伸びる。		低く。
	縮む。より縮む。		部屋の正面で。
	ジャンプする。		左・右のひじ
	ポーズをとる。		ひざ
	歩く。		パートナーに働きかける。
			パートナーに近づく。

(イ) イメージから動きをつくる。

生徒にイメージを与えた後、ノーテーションカードを3枚選ばせる。最初の段階では、カードの内容を容易に表現できるものにする。慣れてきたら枚数を増やしたりカードの順番を自分で並べかえてできるだけリズムカルな表現になるように工夫させる。イメージを与えるときには、具体的なものから抽象的なものへと移行してゆくような工夫が必要である。

(ウ) 動きからイメージをつくる。

生徒にノーテーションカードを3枚選ばせ、そのカードの記号からイメージを連想して動きをつくる練習をする。この他、発想の浮かばない生徒のため、いくつかのイメージを板書したなかから選択できるようにした。

生徒にとって、即興は大変苦痛なものである。即興の動きの手がかりにするため、ノーテーションカードを活用したが、生徒はカードに興味を示し、動きを出す努力をしていた。特に、⑦の方法は、フロアの隅に寄りかちな生徒を中央にひっぱりだすことに成功した。うまく即興ができるようになるとノーテーションカードの記号で踊ることに、かえって抵抗を感じるようになるので、生徒の反応を見ながら、次の学習内容に切り替えてゆく。

(3) 課題解決学習

課題解決学習の取り扱い、生徒の興味や意欲をそこなわないように、一時間で完結するようにした。

〈実践例〉

指 導 計 画

時間	項 目	内 容	評 価	課 題
1	空間のもつ表現性の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ○モチベーション・エクササイズ ○空間のもつ表現性の工夫（高低の変化） <ul style="list-style-type: none"> ・屈・伸の変化・発展 ○見せあい 	<ul style="list-style-type: none"> ○高低の変化を工夫できたか。 <p>（相互評価）</p>	機 械 （ 3人）
2	空間のもつ表現性の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ○モチベーション・エクササイズ ○空間のもつ表現性の工夫（場の変化） <ul style="list-style-type: none"> ・押す・引く・振動の変化・発展 ○見せあい 	<ul style="list-style-type: none"> ○場の変化を工夫できたか。 <p>（相互評価）</p>	ラッシュ・アワー （ 7人）
3	空間のもつ表現性の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ○モチベーション・エクササイズ ○空間のもつ表現性の工夫（方向の変化） <ul style="list-style-type: none"> ・歩・走・跳の変化・発展 	<ul style="list-style-type: none"> ○方向の変化を工夫できたか。 <p>（相互評価）</p>	バスケットボール （ 7人）
4	空間や集団の持つ表現性の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ○モチベーション・エクササイズ ○空間や集団のもつ表現性の工夫（隊形の変化） <ul style="list-style-type: none"> ・回転・ずらす・崩れるの変化・発展 ○見せあい 	<ul style="list-style-type: none"> ○隊形の変化を工夫できたか。 <p>（相互評価）</p>	細胞分裂 （ 7人）

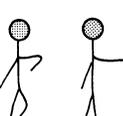
以上のような計画で授業をすすめた。課題解決学習は、「創る－踊る－観る」の流れが一時間で終るようにした。その結果、生徒は一時間の中で、自己の最大限の能力をだしきらなければならないので、今までのように話しあいに費す時間が少なくなり、動きづくりに真剣に取り組むようになった。また、動きとともに空間の使い方も各グループ工夫はしていたが、一時間ごとに課題が変わるのでどうしても動きをつくることに追われていたようである。しかし、個人ノートには、工夫した空間を図示させたので視覚的にとらえることはできたようである。また、発表では、全グループ同一の課題なので、課題に対する動きのとらえ方、空間の工夫のしかたによる表現の違いを理解し、自分たちのグループと他のグループの動きを比較することにより、次の時間への意欲が高まったようである。自分たちのグループの動きを3回くり返して踊ったものをVTRに収録して鑑賞したところ、大変興味を示した。

(4) モチベーション・エクササイズ

ダンスは、動きの組みあわせひとつでイメージがずいぶん変わってくる。創る楽しみを味わうためには、どのような動きがあるのかを理解していなければならない。そこで、歩く・走る・跳ぶ・まわす・ころがる・屈伸・バランス・ねじる・振る・まわす・倒す・波動・ずらす以上13項目を主に、モチベーション・エクササイズを構成した。また、個々の動きの要素もできるだけ分かりやすく説明をした。

〈実践例〉

モティベーションエクササイズ (No. 1) — ウォークとターンの組みあわせ —

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
						
ウォーク & スタンプ	ウォーク	ダウン	ウォーク	Y字バランス	ターン	ジャンプ
(できるだけ美しく歩く。スタンプは軽く踏みかえる。)	(胸まで股をひきあげ、交互にくりかえす。)	(素早く下にしずむ。姿勢はバランスよく保つ。)	(重心をうしろにかけながら歩く。)	(キックの要領で足をひきあげる。)	(素早くターン)	(ターンが終わったらすぐジャンプする。)
⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭
						
バランスターン	重心ターン	胸をずらす	ターン	腕をまわす	ポーズ	
(左・右にバランスターンをする。)	(右から左にターンをして重心をかけかえる。)	(胸を左右にずらす。)	(腕をつかって大きくターンする。)	(ステップをふみながら腕をまわす)	(好きなようにポーズをとる。)	

ま と め

ノーテーションカード・個人ノートを活用や、課題学習の形態は、恥ずかしさを取り除き意欲的にダンス学習に取り組ませるための手だてとして取り入れた方法であるが、このことによって、教師の動きを誘発することばに対して、生徒が恥ずかしさの壁をつき破り、動きで応えてくれるようになった。また、「一時間一時間のダンスの授業がとても楽しかった」という個人ノートの反省からもうかがえるように、その目的は達成されたと思われる。しかし、14時間の単元時間では、生徒が自信を持って動き、踊る楽しさを味わうまでには至らなかった。生徒ひとりひとりが主体的にダンスに取り組むためには、生徒のダンス学習に対する興味・関心・欲求を十分に把握し、それらを充足させる手だてを工夫し、創る楽しさ・踊る楽しさを存分に味わわせることが重要になってくる。この授業実践をふまえ、さらに生徒一人ひとりにダンスの特性にふれる楽しさを味わわせる学習指導の在り方を追求していきたい。

功労者の提言

昭和59年11月15日、第23回全国学校体育研究大会開会式の直前、那覇市民会館において、59年度全国保健体育優良校・功労者の表彰式が行われた。その数123校、133名。この功労者の方々から、10人の先生方に、一番印象に残っていること・私を支えてきた信条・私の希望とお願い・今後の学校体育の考え方・これからの私の生き方 のうち1つ以上についてお書きいただきました。



一念一念と重ねて 一生なり

学校名 栃木県立栃木養護学校 校長

氏名 須見 光一

住所 〒321 宇都宮市宿郷町226番地 ☎0286-33-9433

四十余年前の学生時代に、禅寺に参禅する機会があり、老師の訓話の中で、葉隠にあるこのことばを伺ったのが最初の出合いと記憶している。

このことばは、私の教職生活の折々に、力強く支えになってくれたことは確かであるが、38年余の間の歳月を顧みると、まことに忸怩たるばかりである。

わたくしは、「もっとも魅力のある人とは、〈自分はいま、このようにやっているぞ〉という信念に満ちているかどうかによって決まる。」と考えている。



私の願い



学校名 札幌市立向陵中学校 教諭

氏名 阿部 キワ

住所 〒064 札幌市中央区宮の森2条12丁目1-25 ☎011-621-6383

半年は雪におおわれる北海道にとって、体育館の利用度は大変なものです。有効床面積700㎡の本校では、これを4分の1ずつに分けて、4グループの体育授業が行われることが何時間もあります。35学級、1,500人の生徒ですから、男子がバスケット、女子がダンスのような時になると、表現活動としてのムード作りもできないありさま。せめて体育館が2つあったらなあ、そして球技場と、年中快く使えるプールや卓球場があったら、全体的に授業の効果がぐんと上がると思っています。また、必修クラブの時でも、運動する場さえあれば、動き盛りの生徒の希望を叶えてやれますし、放課後の遊びなども、部活に制約されずにできると思うのです。狭い教室から出して、エネルギーを発散する場を与えてやるのが、生徒の心身をおおらかに育てることになると、常々考えています。選択授業をするといったら、生徒が希望する種目を全然あるいは僅かの人数しかとらせることのできない空しさ、指導する方もされる方も、快い汗をかきたいと願っているのですが。やはり、指導する者の創意工夫ということになってしまうのでしょうか。

勤めている限りは、ベストを尽くそうと、自分自身にいい聞かせている毎日です。

氏より育ち



学校名 青森市立堤小学校 校長

氏名 安保 正義

住所 〒030 青森市大字筒井字桜川280番16号 ☎0177-42-7248

「馬鹿の一つ覚え」という諺があるが、このことばは私のために作られたものだろうと思う。私から体育ということばを削除するならば何んの取柄のないただの凡人である。

教職歴39年、自分が好んではじめた体育で、まさか、今年度、沖縄で開催された全国大会の席上で表彰されるとは、夢にも想像できなかったことで、ただただ感激で一杯である。生涯、自分にとっての最良の光栄であり、一生忘れることのできない思い出になると思います。

この度の表彰に際しては、青森市小学校教育研究会体育部会の先生方の永年に亘る陰に陽にご指導、ご支援の賜とっております。深くお礼と共に感謝します。

今後の学校体育について私見を申しのべる。特別体育に秀でた教師でなければ体育の指導ができないということではない。吾々は常に教師の学習不足は、児童の学習を浅薄にするものであることを覚らねばならない。

この際吾々教師は改訂指導要領を再吟味し、日常体育生活における多くの問題の解決に、一步一步前進し、基礎的修練を積ませることは当然のことであらねばならない。

私を支えてきた信条



学校名 東京都台東区立忍岡小学校 校長

氏名 安藤 孝行

住所 〒336 浦和市本太1丁目20番16号 ☎0488-82-7714

私は、健康・誠実・努力を信条としてまいりました。青年教師時代からこの信条を大切にしていまいりましたが、校長として退職を前にして反省することが多くございます。体育人が健康を自ら害したり、教師として不誠実であったり、学校で積極的に努力しない姿は許されません。教師として、体育を特に専攻研究を志している者であれば、学校で大きく期待され、積極的に活動し、職場を明るくし、仲間、教え子、父母から敬愛されることが大切です。体育人の過去に素直に申し上げて大洒呑みで、人柄は良好であるが知性・教養に少し欠ける傾向の方が散見されました。私はこのような先輩・仲間の姿を他教科専攻の方がどう見ているか気がかりでした。私は努めて、体育を主とする教師であればこそ学校になくしてはならない教育者でありたいと努力してきたつもりです。体育人が体育分野で活躍されながら、期待と尊敬とを得られる教育者になってほしいと念じております。青年教師時代から体育指導に熱中した情熱をいつまでも継続してほしいと思います。学年主任、生活指導主任、教務主任、保健主事、教頭、校長、教育関係職と求められて、健康教育を通して人間教育をめざして責任を果たしてほしいのです。今回東京都教育委員会より学校体育の功績により教育功労賞を受賞したことを体育人の誇りとしております。



校長のあるべき姿を求めて

学校名 新潟県両津市立東中学校 校長

氏名 土屋 源左衛門

住所 〒952-12 新潟県佐渡郡金井町大字千種 ☎025963-2914

学校の教育は校長の人格が根幹である。学校教育における道徳教育は、人間性豊かな児童生徒の育成を目指すという観点から一層の充実強化が要請されている。一方、古くから「教育は人にあり」と言われている。今この言葉の意味を深く考えてみると、その意味する内容がいかに重要なものであるかが痛感させられる。学校教育とは教師が学んでみせることであると思う。一心に学んでいく先生の姿に接して、子供達は先生を心から尊敬し、信頼して、やがては、「自分も先生のような人になりたい」と考え、進んで先生から学びとろうとする姿。この子供達の素朴な願いの中にこそ道徳教育の真実が秘められているのではないかと思う。このことは、教育という営みが発生した原点に立ち返ってみれば明らかなことである。つまり、昔は尊敬する人のところへ教を乞いに行き、そこで学んでいる。

このように考えてみると、校長自身のもつ人格の比重は極めて重く、求道者としての校長を志向しなければならぬと思う。そこで校長としてのわたしは、生徒・父母や教師から尊敬される人になるために苦しみ、悩みぬき、絶えず人としての道を探求し、自分で自分自身を厳しく鍛え、磨かなければならぬと思うのである。

凡人は凡人の人生



学校名 静岡県立沼津商業高等学校 校長

氏名 梶原 亨

住所 〒411 静岡県駿東郡長泉町下長窪59番10号 ☎0559-87-2266

私はよく人から「お若いですね！おいくつになりますか」といわれる。40代、50代の前半の頃はそう言われると、余り嬉しく思わなかった。青二才とみられたと思ったからである。働き盛りの時代だとむしろ老けてみられたほうが都合がよいからであった。しかし、55才頃を過ぎた頃より現在の60才の間近になるとこの言葉が逆にじじい臭くなく若さ撥刺と気持よくすら受け留められる。

私のこの若さについて特別にやっているわけではなく、生れながらに頭髪が黒く多くあるところから受ける状況だろうと思う。

ところで私はだいぶ前になったが、年齢の時代にあった考え方、生活の取り組み方について生きるこの本を読んだことがある。20才代は体力とファイトをフルにはたらかせて、30才代は世間から失敗は大目にみてもらえなくなり、いきおい慎重にならざるを得ない。40才後半から55才頃は、すべて円熟期で丸味のある生活をとった。60才以降は引退期で、顧問的な相談的役割をする。この四期がすなおに実行できるような人生をという内容であったが、この点自身大いに反省する人生であったが、今になってこれもまあよいではないかという心境で、凡人は凡人の人生があってもよいではないかと考えている昨今である。

三つの教育理念



学校名 京都市立朱雀第一小学校 校長

氏名 土田 謹一

住所 〒603 京都市北区紫野上石竜町42番地 ☎075-491-3983

私達体育指導者は、「21世紀に生きる、人間性豊かな児童の育成をめざす学校体育の創造、創意を生かし、活力ある学校体育の充実と発展」を願い、その具現化を目ざさなければなりません。

現代社会では、運動が生涯を通じて人々の生活内容になっていくものであると考えられます。従って、学校体育では、豊かな人間性の育成といった点で、生涯にわたってスポーツ、運動を楽しむことができる人間を育てることが重要な目標となってきました。

この目標達成のために、次の三つ教育理念を基本姿勢に進まねばならないと考えます。

- ひとり、ひとりを大切に …… 人間尊重の精神に徹する
- 質の充実 …… 質的志向への転向
- 学校の主体性の確立 …… 特色ある学校教育 → 教師の主体性

教育の画一化を排し、教師の専門性を発揮し、柔軟性、多様性、創造性を身につけた「得がたい先生」になるよう研鑽をつまねばなりません。子ども達は、こういった先生との出会いの中で、スポーツ、運動の楽しさにふれ、学校で身につけた数多くの経験を生涯の生活に生かし、健康で豊かな人生を送ることを願って、日々の研究と実践に励みたいと念じています。



体育ぎらいをつくり出さない学習の創造

学校名 兵庫県明石市立明石小学校 校長

氏名 山本 徳三

住所 〒674 兵庫県明石市二見町東二見1274番地 ☎078-942-0557

昭和59年度の学校体育功労者として表彰の栄を受け、この道40年余をふりかえって、このような栄誉をいただくに値する成果をあげ得たかどうか、今もなお、自問自答しているところである。

思えば、スポーツの専門家でも何でもなかった私が、すべての生活必需品にもこと欠き、食物でさえ不足がちであった敗戦間もない中で、中学校の体育教師として、教科体育の指導にたずさわって、生徒会活動に関わって、各種の体育クラブの設立をはじめ、その指導にがむしゃらにつとめてきたのは、ただスポーツ・運動が好きであったからである。なぜ?と問われれば、そのこと自体が、楽しかったからだと答えるしかない。

現在は、あらゆる施設、設備、用具が容易に調達でき、すぐれた方法によって、スポーツのレベルも一段と向上している。しかし、一面、児童生徒たちは、はたして体育を楽しんでやっているのであろうか。創意工夫のないマンネリ化した体育授業やクラブ活動を通して、むしろ、体育ぎらいを数多く作り出してはいないであろうか。この反省のうえに立って、スポーツ・運動の真の楽しさを味わうことのできる体育学習を創造するため、学校体育を見なおさねばならないと思う。体育関係者各位の一層のご活躍を期待してやまない。



学校体育について

学校名 (財) 島根県体育協会 専務理事

氏名 渡邊 晴夫

住所 〒690 松江市北田町22番3号コーポ伊藤51 ☎0852-26-7358

学校体育について私の記憶にあるのは、昭和10年頃からの半世紀である。幸に非常に充実した小学校生活で、秀れた指導者に恵まれて教育を受けたと思っています。鉄棒、跳び箱、ろく木、各球技コートが整い、熱心な先生方が正課時も放課も子供達を見て下さった。研究授業のクラスとしても公開されたことも多かった。児童の発育・発達をふまえて教材が配され、その展開も正確であったことだろうと今にして思われます。中学校では、軍事的な教練が入っていたことを除けば、学校体育は今も昔も熱心な指導が続いていて良い意味で大きな変化はしていないと思う。それは変わらず学校教育の基本であるからだと思う。そこで提言として一言申し上げるならば、子供達の将来を思うとき、自分ひとりで自分の身体を扱うときの基礎的な知識、基本的な技術を教育しておかねばならないと思います。身体の強弱にかかわらず自分の身体を守る、健康の増進をはかる術を知っていることは、本人にとって基本的な支えとなることだからです。その上に、グループで楽しめるスポーツの一つ二つを、なんとか人並にこなせれば心の健康にも役立つし人世は明るいものとなるでしょう。学校だけで終らない指導を期待したいと思います。



教育とは自分を変えること

学校名 高知県立高知丸の内高等学校 校長

氏名 文野 栄喜

住所 〒780 高知市福井扇町12番14号 ☎0888-72-6775

(1) 教育とは人間を変えること。

教職について37年、振り返ると世相と相まって曲折の多い時代であった。しかし一貫して頭の中にあつたものは「この子供達をどうするのか」ということであつた。時には自分の力の乏しさを悔んだこともあり、不安にかられたこともあつた。そんな時には意識して生徒の中に入って「生徒は今何を求めているか」を把握するために努力した。それに基づいて対応の方法を探し求めた。苦しくても自身自身の質を高め、幅を広げることにより総合的な指導力を高めなければならない。指導者は、自分に勝つた時に、はじめて生徒を意のままに育てることができる。生徒は敏感である。……ひしひしと感じた。

(2) 私の希望とお願い

部活動を推進することも学校体育の重要な課題であるが、最も根幹である授業について振り返ってほしい。指導内容が生徒の実態に適し、計画的で、指導方法が意欲を引き出すように工夫されているか……ということである。思いつきの指導では生徒は「やらされた」という不満な気持ちで楽しさがない。生活の中に体育活動が生きる学習指導、人間形成に役立つ学習は、楽しく、活気に満ちたものでなければならない。

あ と が き

高度情報化社会の中で、研究誌の果たす役割りは重要だと思います。その内要を豊かなものにするためにはいろいろの方法があると思います。現場の教育活動に生かしていくためには、1.それぞれの学校がもっている問題点を具体的に示して、こういう問題を解決していくための基本的な考え方と方法を教示して貰う。2.この学校の体育実践は非常にすばらしいので、是非、全国の学校に紹介してほしいという推せんをして貰う。のが実際的であり、実行可能です。

大石会長の「学習と評価」は先生の専門分野であり、生き方の基盤である哲学の立場からの提言でもあり、学体連のすすむべき方向を示唆しております。

松本千代栄先生には、59年度 沖縄全国大会で争点となった“学校におけるダンス”について、基盤になる考え方を歴史を追って書いていただきました。この機会にじっくり考えていかなければと思います。

紙面の都合で、授業研究は4分校しか掲載できませんでした。永年同一のテーマに全校をあげて取り組んだ記録のエキスですから、新しい発想をする時の手がかりになるとと思います。

短く表現されたことばに、「この道一筋」に精進された先生方のさわやかな味わいを感じました。ご苦労さまでした。同時に私たちは重大な課題を与えられました。

桜の花と共に、今年も「学校体育研究」第18巻をお届けすることができました。

私たちの機関誌であるこの「学校体育研究」が巻を追ってよくなっていくよう、先生方の積極的な御協力とアイデアの提案をおねがいたします。

(編集委員長 伊藤忠一)

財団法人日本学校体育研究連合会編集委員会

発行日 昭和60年3月31日
発行者 大石三四郎
発行所 財団法人 日本学校体育研究連合会
〒151 東京都渋谷区代々木神園町3番1号
国立オリンピック記念
青少年総合センター内
☎ 03-465-3954・7464



教育(呼吸)シューズ®

商標登録第1412578号



●実案公報 昭53-40340 ●商願 51683号 ●意願 3895号

☆☆☆☆☆ 3つのドキュメント ☆☆☆☆☆

- ※靴底に絶えず新鮮な空気の流れる …………… 呼吸シューズ
- ※運動の度に吸気、排気を忠実に実行する …………… 呼吸シューズ
- ※靴底に輝かしい光のさし込む …………… 呼吸シューズ

☆☆☆☆☆ 3つの適性 ☆☆☆☆☆

- ※運動靴皮膚炎の予防……………学校シューズの保健措置は
この呼吸シューズで
- ※靴内気候の改善……………温度・湿度の上昇防止は
この呼吸シューズで
- ※体育館・校内上ばき用……………素適な履心地と適度なストップ効果は
この呼吸シューズで

財団法人日本学校体育研究連合会 特別賛助会員

日本教育シューズ協議会

本部事務局 岡山市西川原210番地
〒703 TEL(0862)72-5437(代)



Columbine

着る身になって良い品づくり

コロンバイン®

スポーツウェア

日本学校体育研究連合会特別賛助会員

学体連推薦製品製造販売

児島株式会社

倉敷市児島小川2丁目4番60号 TEL (0864) 72-2830

(名古屋・東京・大宮・盛岡・札幌)